

な～に谷っ戸ん田 5年目 3回 田起こし・たくあん分配・タケノコ掘り

とき 平成 23 年 4 月 16 日(土) 9:30 - 17:00

ところ 谷っ戸ん田・小屋・竹林 天気 晴

参加者 石田、磯、梅下(母・日菜子・浩太郎・裕二郎)、オズ、霧生、久保、坂本(AM)、佐々木(夫(PM)妻・優聖)、高田夫妻、藤田、松下、松本(夫妻) 計 19 名(子供 4 名含む)

午前中ゲスト:大場妻、子 3 人

園主コメント:くれぐれも怪我のないように!

===

● 午前

田んぼリーダー磯さんが、作業を説明。

・道具類をてつさんから借りてくる。(一輪車 3 台、スコップ、カマ、トラクタ 2 台、テラー 1 台)

・これまでコシヒカリエリアと赤米エリアを隔てていた盛り土 = 豆畔(マメグロ)を崩し、土を田全体に散らす。

・田の中の落ち葉の山を堆肥置場に移動する。

・田の中に残っている枝や石を拾う。

そこまで済んだら、機械で田起こし開始。手の空いた人があぜの草刈りと、たくあん仕分けを行うという計画。

11 時前、田起こしの前段階 + 一部草刈りまで終了。休憩後、加工班を中心としたたくあん分配組が分離。田んぼ班を中心に、機械で田起こしを行う。

【たくあん分配】

樽 3 つ、たくあん三種を当日の参加 12 家族分に分けて、残りはグリーンへ。樽、漬物石を洗い、干しておく。

分配に使ったビニル袋は、各自持ち寄り。1 人あたりの持ち帰り量は 10 本程度。

===

● ランチ 各自コンビニなど。磯さん + 数名、田周囲でセリ摘み。八百屋で買うのと野のセリはまったく味が違う。おひたし絶品。(by 磯さん)

===

● 午後

【田起こし】

田起こしの意義について石田リーダーから解説。

浅く均一に耕うんすることが大切。浅い場所、深い場所があると、田植えする際に田植え機でちゃんと植わるところと植わらないところが出る。それにより、稲刈りにまで影響が出る。それほどに田起こしは重要である。

谷っ戸ん田の場合は、うまく植わらない場所は手植えすればいいので、深刻に心配することはない。

今回使用したトラクタの一番大きい物は、モノローといって自動的に表面を均一にする機能がついているが、他のトラクタとテラーにはついていない。そのため、同じ場所を二度通ると深くなってしまふ。深さの目安は 10cm = 刃は 5cm しか土に入らないことが望ましい。これはとっても難しい。

プロは、なるべく一筆書きで機械をかける。今回、午前中は、機械によって縦に向かってかけたり横に向かってかけたりしていたが、すべての機械を同じ向きにかけよう、てつさんから指摘あり。

午後は、すべて短辺に沿ってかけるようにした(= 小川と小道に直行する向き)。

【タケノコ掘り】

田起こしの意義講座終了後、竹林班と梅下チルドレンを中心とした数名、タケノコ掘りへ。

今週期待していた雨が降らなかったこともあり、収穫は 7 ~ 8 本。切って 11 家族に分配した。来週に期待!

【畦切り】

全体的に二回耕うんした後、畦切りを行った。小道に沿った辺に対し、棒に紐を結んでまっすぐに張り、その線に沿ってスコップを垂直に入れ、くっきりした畦を作る。畦に近い場所(後日畔つけ(くろつけ)をすのであろうエリア)の草は刈る。

ハウス側の辺も、水が漏れる心配はないのだけれども、雑草を防ぐという意図で、畦切りを行った。

干していた漬物関係の道具を片付け、田起こし関係の道具を洗い、17 時頃終了。

園主コメント:その 1 ハウス側の畦切りは糸張りしないで行ったところ、「やるなら糸を張って真っ直ぐやるように」とのコメントをいただいた。次回、この部分のやり直しから始めることとする。

その 2 トラクター洗浄時、ドロは田んぼに置いてくる、が基本とのこと。次回以降、機械を片付ける時は現地でドロ落としをした上で行うことにしたい。
(記録:オズ)